

令和2年度第2回千葉県地域リハビリテーション協議会（書面開催）に係る質問・意見等

<p>議題（1）地域リハビリテーション広域支援センターの指定（選定）について 議題（2）次期千葉県保健医療計画策定（リハビリテーション対策）のスケジュールについて 議題（3）地域リハビリテーション推進のための関係機関調査の実施について に関する意見等への対応方針について</p>
<p>記載欄 なし</p>
<p>報告（1）千葉県リハビリテーション支援センター及び地域リハビリテーション広域支援センターの活動結果について</p>
<p>（岩本協議会員） 昨年秋に策定された国の「循環器病対策推進基本計画」では、脳卒中等の後遺症を有する方に対する支援体制の整備が必要とされています。また、「失語症者向け意思疎通支援事業」が市町村の地域生活支援事業の必須事業として位置づけられ、失語症者と意思疎通支援者とを結びつけ、派遣する場として、「失語症サロン」の設置が求められています。 広域支援センターの業務に言語聴覚士が関わることは、現状多くないようですが、地域から孤立しがちな失語症等の方々の参加の場となるような、当事者グループの立ち上げや運営にも、広域支援センターのお力を発揮していただけることを期待します。</p> <p>（県） 「循環器病対策推進基本計画」では、循環器病患者においては、社会復帰という観点も踏まえつつ、急性期から回復期及び維持期の円滑な移行、医療と介護の間で切れ目のない継続的なリハビリテーションの提供体制を構築する必要があるとされており、引き続き、県リハビリテーション支援センター及び地域リハビリテーション広域支援センター事業による関係機関の連携・支援体制を整備していきたい。 失語症者の支援に係る、市町村地域生活支援事業と広域支援センターの関わりについては、広域支援センターに係る県の指定基準上、言語聴覚士は必須となっている。失語症サロンの支援も含めた失語症者支援について、各広域支援センターに周知し、各市町村の事情に応じた支援をお願いしていきたい。</p> <p>（小宮協議会員） コロナ禍においてweb研修会が行われています。千葉リハや広域支援センターでのweb研修会案内を一同に集めて、千葉県内のどこからでも、どの広域支援センターの研修会でも視聴可能にすれば、リハビリテーションがより広く広がるのではないのでしょうか。</p>

(県)

県リハ支援センター・広域支援センターではライブ配信やオンデマンド配信によるweb研修会が実施されてきたが、WEBシステムの参加上限人数や地域の実情に応じた研修内容等があることから、必ずしも全県的に周知を図ってはいなかった。

次年度については、各支援センターに本協議会の意見を周知し、研修会の目的や内容を勘案し可能な範囲で全県周知を進められるようにしていきたい。

報告（2）「ちば地域リハ・パートナー」の指定状況及び協働状況について

記載欄

(小宮協議会員)

登録していたリハ・パートナーの数の減少の原因は何が考えられるのでしょうか？

活動の時間帯が協力できる時間帯でないことなのでしょうか？

アンケートを取るとよいと思います。

(県)

パートナーを辞退した際に、その理由を訊いており、本事業への人員確保が難しいことなどが挙げられている。

また、広域支援センターからの情報を総合すると、実際に協力できる活動が少なかったり、COVID-19の影響で対外的な活動が困難になったこと等が原因として考えられる。今後、辞退理由を把握し、対応策を検討したい。

報告（3）地域リハビリテーション出前講座の実施結果について

記載欄

(小宮協議会員)

コロナ禍で体験学習ができなかったのだと思いますが、今年6年生だった子は今後その機会がないということですから、なるべく多くの子供たちがその概念に触れることを考えてはいかがでしょうか？

体験はできないけどweb講座でリハビリテーションについて考える機会を与える授業があってもいいと思います。

(県)

今年度、申込小学校と広域支援センターが相談し、オンラインで車椅子体験に関する授業を実施する予定があったものの、小学校側の設備整備が間に合わず、実施に至らなかったケースがある。

COVID-19影響で体験学習が難しい期間が続くことを視野に入れ、WEBを活用したコンテンツの作成を検討したい。